

**平成 24 年度**  
**下京区西部エリアの活性化を目指す検討会議**  
**活動報告書**

**平成 25 年 3 月**

## 目 次

1. はじめに	1
はじめに	2
【検討会議の構成】	3
2. エリアの概要図	4
(1) 「下京区西部エリア」の範囲	5
(2) 当該エリアの主な地域資源	6
(3) (2)に記載の主な地域資源の概要	7
3. 下京区西部エリアの活性化を目指す検討会議全6回の概要	9
(1) 平成24年度 of 取組	10
(2) 第1回検討会議	10
(3) 第2回検討会議	11
(4) 第3回検討会議	11
(5) 第4回検討会議	12
(6) 第5回検討会議	12
(7) 第6回検討会議	13
4. 今年度の成果と今後の課題	14
(1) 今年度の成果	15
(2) 今後の課題	16

## 資料編

1. 第1回検討会議の概要	資-1
2. 第2回検討会議の概要	資-6
3. 第3回検討会議の概要	資-14
4. 第4回検討会議の概要	資-22
5. 第5回検討会議の概要	資-30
6. 第6回検討会議の概要	資-40

## 1. はじめに

## はじめに

下京区西部エリアには、かねてから、梅小路公園、中央卸売市場第一市場等の公共施設のほか、産業支援施設、社寺、大学、文化・観光施設など、交流拠点にふさわしい地域資源が数多く集積してきた。そうした中、梅小路公園内に京都水族館が平成24年3月に開業し、周囲に賑わいをもたらしている。また、平成28年春には、鉄道博物館の開業も予定されている。

民間事業者によるこれらの開業の動きを契機として、京都市最大のターミナルである京都駅に近接する当エリアが一体となって、住民の皆様と協働で人の流れと賑わいを創出し、来訪者をあたたかくお迎えすることができれば、エリア内の産業、商業、観光、文化、地域コミュニティ等の活性化にとどまらず、京都のまち全体への波及的効果も期待される。

こうした一体的な活性化を、民間の地域資源が集積したこのエリアで目指すに当たっては、民間活力を最大限生かせるネットワークを形成し、目指すべき活性化の在り方から議論を尽くして、様々な活動を通して企業、事業者や住民の皆様には活性化の機運を広げていくことが有効と考えられる。

そこで、産・学・公・地域の連携を進め、更なる当エリアの活性化について検討するため、「下京区西部エリアの活性化を目指す検討会議」が設置された。

本報告書は、このような経過で設置された本検討会議における平成24年度の活動を取りまとめたものである。

なお、本検討会議は、平成25年度も引き続き検討を進める予定である。

【検討会議の構成】

本検討会議の構成は以下のとおりであるが、加えて、京都市役所内のワーキング・グループや、龍谷大学の学生、あるいは“まちあるき”及びワークショップのファシリテーターとして「特定非営利活動法人 京都・地球みらい機構」からの協力があった。（五十音順、敬称略）

	団体名	役職名	氏名
座長	コミュニティデザイン研究室 同志社大学大学院総合政策科学研究科	代表 嘱託講師	谷口 知弘
	梅小路活性化委員会	委員長	市村 勝
	大阪ガス（株）	京滋地区副支配人 コミュニティ室長	服部 博一
	オリックス不動産（株）	京都水族館支配人	升本 忠宏
	京都駅ビル開発（株）	取締役営業部長	奈倉 宏治
	京都市	下京区長	山本 耕治
	京都市	総合企画局政策企画室長	柴山 薫
	（公社）京都市観光協会	事務局長	山崎 晶子
	（公財）京都市景観・まちづくりセンター	事務局次長	齒黒 健夫
	京都市中央卸売市場協会	専務理事	北島 誠一
	京都市中央卸売市場第一市場	次長	林 眞佐男
	京都商工会議所	産業振興部まちづくり推進担当課長	外池 順一
	（公財）京都市都市緑化協会	専務理事	北村 康二
	（特活）京都・地球みらい機構	常務理事	高梨 日出夫
	京都府旅行業協同組合	理事長	山本 芳孝
	京都リサーチパーク（株）	営業開発部長	鈴川 和哉
	自治連合会（大内自治連合会）	会長	中辻 正次
	自治連合会（七条自治連合会）	会長	西村 為彦
	浄土真宗本願寺派（西本願寺）	宗務所所務部＜文書担当＞課長・総長秘書	中井 真人
	真宗大谷派（東本願寺）	宗務所総務部次長	徳永 誠
	（公財）角屋保存会	理事長	中川 清生
	西日本旅客鉄道（株）（JR西日本）	近畿統括本部京都支社 総務企画課（地域共生）担当課長	平野 剛
	（学）龍谷大学	学長室課長	花崎 正順
	龍谷ミュージアム	事務部次長	太田 功

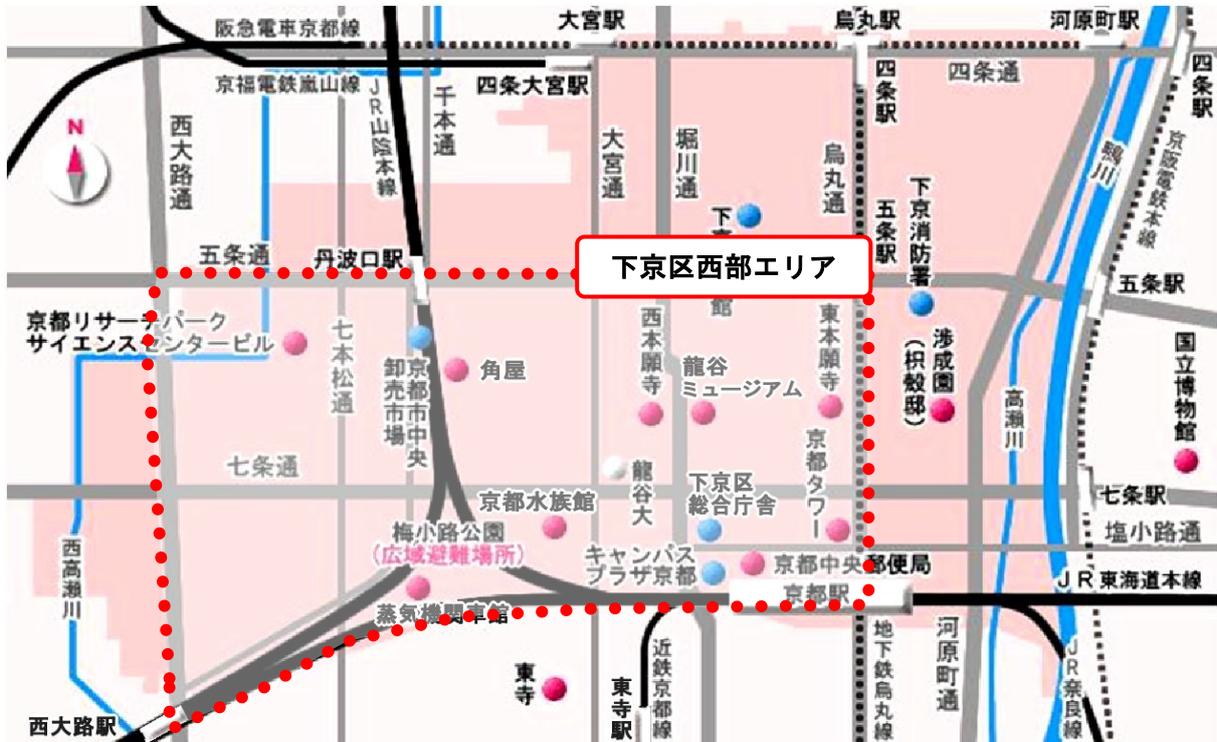
京都市役所ワーキング・グループ会議メンバーは以下のとおり（検討会議委員を兼任するメンバーを含む）。（建制順、敬称略）

局・区	役職名	氏名
総合企画局	政策企画室長	柴山 薫
文化市民局	地域づくり推進課長	籾 哲也
産業観光局	商工部長	山本 達夫
	産業政策課長	原 昭彦
	商業振興課長	小山 幸司郎
	中央卸売市場第一市場次長	林 眞佐男
	産業振興課長	武田 淳
都市計画局	観光おもてなし課長	砂川 敬
	都市づくり推進課長	西村 健
	都市計画課調整担当課長	中西 朗
建設局	歩くまち京都推進室企画課長	大井 貴之
	緑化推進・梅小路公園再整備担当部長	大西 功
	建設企画課長	福田 敏男
下京区	緑政課梅小路公園再整備担当課長	的場 靖史
	地域力推進室長	松森 敏郎
	総務・防災課長	藤本 信和
交通局	まちづくり推進課長	西山 圭児
	総務課長	西山 真司
総合企画局	政策企画課長	西窪 一

## 2. エリアの概要図

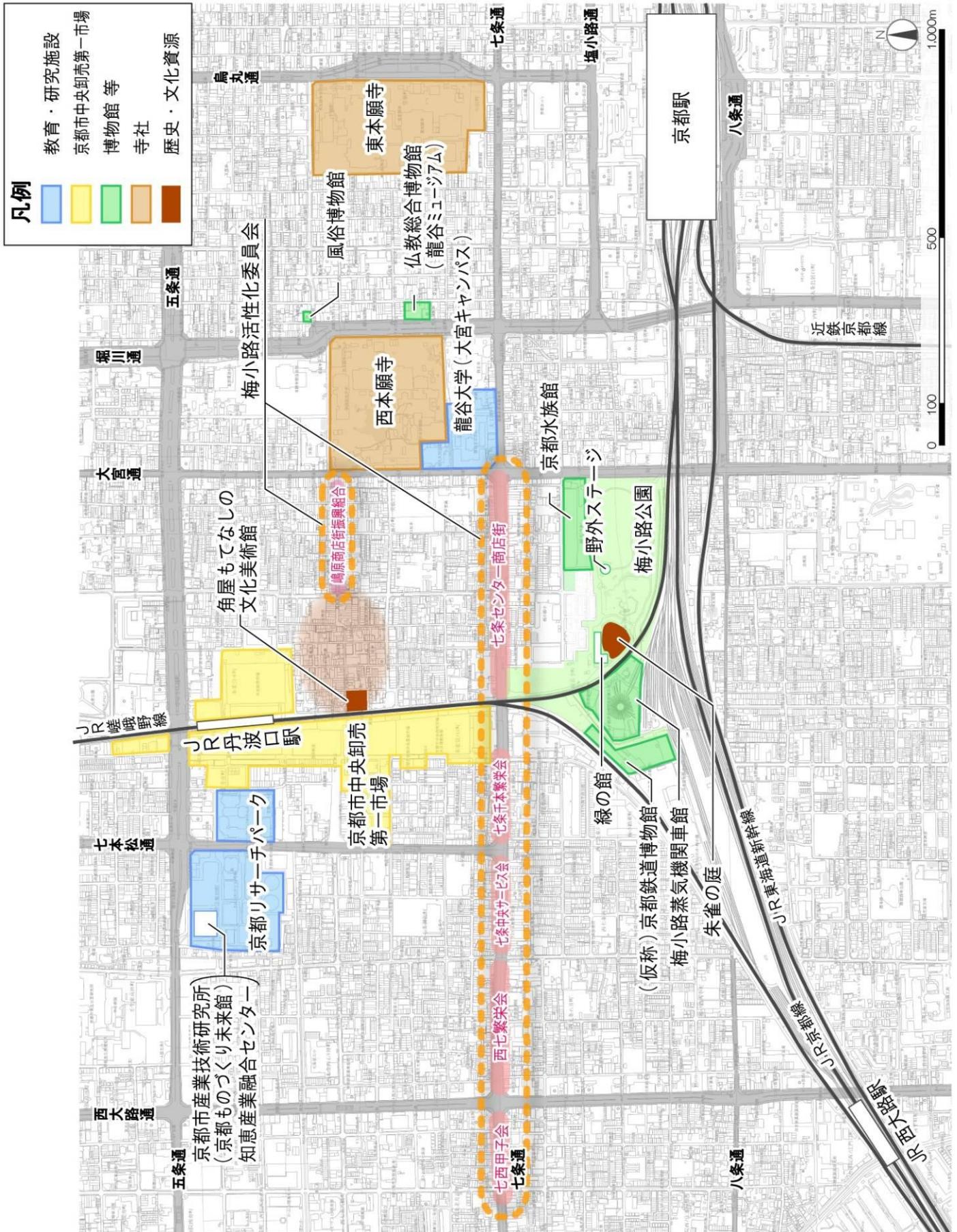
### (1) 「下京区西部エリア」の範囲

下京区西部エリアの範囲については、概ね梅小路公園を起点に、南北は五条通からJR京都線、東西は西大路通から烏丸通に囲まれた地域を想定しているが、連携できる取組は積極的に取り入れられるよう、エリアの範囲は固定せず、柔軟に対応できるようにしている。



(下京区ホームページ「下京区の案内地図」を編集)

(2) 当該エリアの主な地域資源の概観



(3) (2)に記載の主な地域資源の概要

平成25年3月時点

	エリア内の主な地域資源	主な出来事
①	梅小路公園	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成7年に開園。</li> <li>平成22年3月野外ステージ完成、平成23年8月カフェレストランを新装オープン。</li> <li>(仮称) 京都鉄道博物館が平成28年春開業予定。</li> </ul>
②	梅小路蒸気機関車館	<ul style="list-style-type: none"> <li>昭和47年に開館。平成22年1月に入館者数700万人を突破。</li> </ul>
③	京都水族館	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成24年3月オープン。</li> <li>11月には、入館者数が初年度目標の200万人を超える。</li> <li>日本初の人工海水を利用した水族館で、内陸型としては最大規模。</li> <li>地元鴨川に生息する国の天然記念物オオサンショウウオの展示など地域密着を目指す。</li> </ul>
④	京都市リサーチパーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国初の民間運営によるリサーチパークとして平成元年にオープン。</li> <li>平成22年10月に五条通沿いに、京都市産業技術研究所、オフィスと商業施設の複合施設である9号館がオープン。</li> <li>京都市産業技術研究所は、進展が見込める7分野（ナノ技術、バイオ技術、京都地域性活用分野、デザイン、環境適合、生活科学分野、コンピュータ応用）の新たな研究テーマを重点的に取り組む。</li> <li>平成22年11月に伝統産業と先端産業の融合で「新たな京都ブランド」の創出に取り組む知恵産業融合センターが京都市産業技術研究所内に創設。</li> </ul>
⑤	京都市中央卸売第一市場	<ul style="list-style-type: none"> <li>昭和2年に日本で最初の中央卸売市場として開設。</li> <li>平成22年10月から毎月第一土曜に繁盛市を開催。 ＜主催：京都市、京都市中央卸売市場関連事業者連合会＞</li> <li>同年同月に愛称「京朱雀市場」決定。</li> <li>平成23年4月から繁盛市と一体的に実施する市民感謝デー「京朱雀市場 食彩市」（毎月第二土曜）を開催。 ＜主催：京都市、京都市中央卸売市場協会＞</li> <li>平成24年8月、「京・朱雀すし市場」オープン。</li> <li>平成24年12月、調理実習室や資料・展示室を整備した「京の食文化ミュージアム・あじわい館」を開設。平成25年3月31日までをプレオープンとし、同年4月1日より本オープンとする。</li> </ul>

⑥	梅小路活性化委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成23年6月に発足。嶋原商店街振興組合、七条センター商店街、七条千本繁栄会、七条中央サービス会、西七繁栄会、七西甲子会の6商店街を中心に構成。</li> <li>5つの地元小学校と連携し、商店街を児童の学習の場として活用してもらい、地域ぐるみでの教育機会の創出・地域の発展に寄与する事業「梅小路いきいき学習」等を実施。</li> </ul>
⑦	角屋もてなしの文化美術館	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成10年に開館。揚屋建築の唯一の遺構、国の重要文化財。展示だけでなく文化講座なども開催。</li> </ul>
⑧	西本願寺	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成23年4月～平成24年1月、「親鸞聖人750回大遠忌法要」を行い、期間中に、記念行事として門前町において、宗門の法要行事に縁のない人も参画できる「ご縁まちフェスタ」を開催。</li> </ul>
⑨	東本願寺	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成23年に「宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要」を開催。</li> <li>平成24年1月～平成27年12月末、阿弥陀堂御修復。</li> <li>平成25年1月～平成27年12月末、御影堂門御修復。</li> </ul>
⑩	仏教総合博物館 (龍谷ミュージアム)	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成23年4月に開館。</li> <li>日本初の本格的な仏教の総合博物館。</li> </ul>
⑪	風俗博物館	<ul style="list-style-type: none"> <li>「源氏物語」の世界を実物の1/4で再現した模型を展示。</li> <li>平成24年4月にリニューアルオープン。</li> </ul>
⑫	龍谷大学(大宮キャンパス)	<ul style="list-style-type: none"> <li>龍谷大学発祥の地。本館をはじめ、国の重要文化財となる建物が現存し、映画やドラマの撮影に協力している。</li> <li>地元団体等とコラボレーションして地域活性化に資する活動を京都市が認定する「学まちコラボ事業」に、平成24年度は3団体が認定。</li> </ul>
⑬	京都駅(京都駅ビル)	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成9年に京都駅ビル開業。</li> <li>平成24年1月から平成25年3月まで、開業15周年記念事業を開催。</li> </ul>

### **3. 「下京区西部エリアの活性化を目指す検討会議」**

#### **全6回の概要**

(各会議の詳細は「資料編」参照)

## (1) 平成24年度の取組

本年度の取組としては、平成32年度までの下京区のまちづくりの方針である「下京区基本計画」のキーワードである“つなぐ”を基軸に置き、まずは「委員同士がつながり、下京区西部エリア地区を知る・理解する」ことを目標として、検討会議を構成するメンバー全員による3回の“まちあるき”を実施した。

## (2) 第1回検討会議

- ・ 下京区西部エリアの梅小路公園内「緑の館」において、平成24年7月24日、第1回検討会議が開催された。
- ・ 冒頭に、門川市長より挨拶及び本会議設置の趣旨説明があり、続いて山本下京区長より地区に関する簡単な紹介を兼ねた挨拶があった。
- ・ 次に、設置要綱第4条第2項に基づき、市長の指名により当検討会議の座長として、コミュニティデザイン研究室代表、同志社大学大学院総合政策科学研究科嘱託講師の谷口知弘氏に就任を依頼し、同氏の承諾を得た。
- ・ 谷口座長の議事進行により、当該地区で1705年から法衣業を営む株式会社井筒の代表取締役社長・井筒與兵衛氏を紹介。井筒氏には「京都の成立と下京区西部エリアの歴史的認識そして未来への展望」と題して、平安京の造営前後に遡る時代からの京都における当該地区の歴史的な位置づけ等についての説明と、歴史的な流れを踏まえた上での未来に向けての提言を頂いた。
- ・ 続いて、各委員が自己紹介を行った後、4つのグループに分かれ、下京区西部エリア内の地域資源の魅力と課題について議論した。
- ・ グループ内での議論についての要点説明や意見発表後、「会議のときだけでなく、日常の繋がりの中から新しいものを生み出していければ」との座長総括を経て、閉会した。



### (3) 第2回検討会議

- ・ 平成24年10月2日(火)、京都市中央卸売市場第一市場に集合し、事務局より第1回検討会議ワークショップで議論された意見総括を紹介。
- ・ 谷口座長より、まちあるきの目的や視点についての説明に続き、事務局より「第1回まちあるき」のコース説明。
- ・ 4班に分かれ、各班はファシリテーターに従い、グループごとに「まちあるき」をスタート。
- ・ 「まちあるき」を終えたグループごとに、大内学区自治会館にてファシリテーターの進行で取りまとめ作業をワークショップ形式で行った。
- ・ 谷口座長の議事進行により、各班の代表からの取りまとめの概要発表・意見交換後、「まちあるきを通じて多くの魅力を発見したが、それが外から見るだけでは分からない。もったいないことがいっぱいある下京区ということが大きな発見」との座長総括を経て閉会。



### (4) 第3回検討会議

- ・ 平成24年10月25日(木)、梅小路公園内「緑の館」に集合。
- ・ 事務局より前回(第1回まちあるき)のワークショップの総括説明の後、谷口座長から「まちあるき」において留意すべき点についての確認があった。
- ・ 4班に分かれ、各班はファシリテーターに従い、グループごとに「まちあるき」をスタート。
- ・ 「まちあるき」コースの最後に「角屋もてなしの文化美術館」を見学の後、近接する「島原住吉神社・社務所」に集合し、ファシリテーターの進行で各班ごとに取りまとめ作業をワークショップ形式で行った。
- ・ 谷口座長の議事進行により、各班の代表からの取りまとめの概要・意見交換後、「それぞれの施設に魅力があり、施設間の交流も始まりつつある。各施設の方々が相互に見学に行かれるだけでもまちの楽しみ方は増えるのでは」との座長総括を経て閉会。



#### (5) 第4回検討会議

- ・ 平成24年11月14日（水）、龍谷大学大宮キャンパスに集合。
- ・ 事務局より前回（第2回まちあるき）のワークショップの総括説明の後、4班に分かれ、各班はファシリテーターに従い、グループごとに「まちあるき」をスタート。
- ・ 「まちあるき」終了後に、下京区役所会議室に集合し、ファシリテーターの進行で各班ごとに取りまとめ作業をワークショップ形式で行った。
- ・ 谷口座長の議事進行により、各班の代表が取りまとめの概要を発表し、意見交換を経て閉会。



#### (6) 第5回検討会議

- ・ 平成24年12月20日（木）、龍谷大学大宮キャンパスに集合。
- ・ まず、JR西日本の平野委員より、平成28年春開業予定の「鉄道博物館」計画の概要説明があった。
- ・ 谷口座長の進行に従い、(特活)京都・地球みらい機構の後藤氏より、全3回の「まちあるき」の映像を見ながら振り返って記憶を呼び起こした。
- ・ 4班に分かれ、各班はファシリテーターの進行で「全3回のまちあるき総括」の意見交換と取りまとめ作業をワークショップ形式で行った。
- ・ 谷口座長の議事進行により、各班からの成果発表・意見交換後、「現場で活躍している各委員が、お互いに小さな一歩を踏み出し、その成果をこの検討会議で報告し合うこともできれば」との座長総括を経て閉会。



## (7) 第6回検討会議

- ・ 平成25年2月6日(水)、京都リサーチパーク9号棟「京都市産業技術研究所」に集合。
- ・ まず、京都市建設局水と緑環境部緑政課より、「梅小路公園の拡張再整備」についての説明があった。
- ・ 続いて、事務局より、「今後の進め方」について説明。
- ・ 次に、(特活)京都・地球みらい機構の高梨委員より、「エリアマネジメントと下京区西部エリアの活性化」と題し、国内外で展開されているエリアマネジメントの活動事例の紹介と共に、当該地区で目指すべき方向性に関する講演があった。
- ・ 谷口座長の議事進行により、「にぎわい」と「仕掛け」の2つのテーマに分けて、2班に分かれて意見交換と取りまとめ作業をワークショップ形式で行った「にぎわい」のグループは谷口座長が、「仕掛け」のグループは高梨委員が、それぞれファシリテーター役として意見の取りまとめを行った。
- ・ 谷口座長と高梨委員により、各班の議論の成果発表・意見交換後、「地域の人と共に活動することが重要。加えて、単に仲良しというだけでなく、切磋琢磨してニーズに合った施策を作り出していく競争関係になれば」との座長総括を経て閉会。



## **4. 今年度の成果と今後の課題**

## (1) 今年度の成果

活性化に向けた議論を開始するに当たっての第一歩として、今年度開催された6回の検討会議のうち、委員全員による“まちあるき”を3回実施し、併せて当該地区の地域資源の魅力と課題の発見及び確認のための“ワークショップ”を行った。

これにより、このエリアには様々な世代の人が楽しめる多様な魅力が集積しているものの、個々の魅力をつなぐ回遊性の向上が課題であることが関係者にも実感されてきた。

そのため、そこに住み、働く人のためという視点を大切にしながら、梅小路公園周辺を核とした賑わいを共有・持続・発展させるために、すぐにできること、中長期的に取り組むことなどについて検討を進めているところである。

また、これらの議論を通じ、次のような成果を得た。

- ・ 隣接／近接する位置関係にありながら、検討会議設置前にはほとんど交流がなかった団体間において、“お互いが顔のわかりあえる（連絡をとりあえる）関係”となった。
- ・ 団体間における“ゆるやかな連携”がはじまった（例：各団体のパンフレットやリーフレット等を設置し合う、等）。
- ・ 他団体の活動／事業内容を知ったことにより、自分たちの活動／事業に反映するような“新たな連携”がはじまった（例：京都駅ビルの緑化事業に関して、（公財）京都市都市緑化協会の季刊誌『京のみどり』において広く市民に紹介する記事を掲載する、等）。
- ・ これまで各団体が単独で行っていた様々なイベント等を当該地区全体で盛り上げる方向で検討していく機運が生まれた。
- ・ 今後、本検討会議がエリアの活性化に向けて活動していることを市民向けにもアピールしていく動きが生まれつつある（例：6商店街（梅小路活性化委員会）が地元の5つの小学校と連携し、各商店街で小学生を1日店長体験として受け入れる事業「梅小路いきいき学習」の周知に、本検討会議が協力し、同事業のチラシに会議の名称を掲載）。

## (2) 今後の課題

地域における連携の機運が、具体的な活動を共に作りあげていく作業を通して、更に醸成されていくことが期待される。そのためにも、平成25年度以降、地域住民を広く巻き込んだ活動を行う必要がある。

### 【今後の進め方（素案）】

年度		検討会議 (テーマ別部会の設置)	連携	市民参加事業	その他の動き
25年度	上半期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ エリアの将来像等の検討</li> <li>・ 活性化に向けた方策等の検討</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民の声を聴く事業 (アイデア募集など)</li> <li>・ 市民の機運を醸成する事業 (HP、SNS の活用など)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ エリアの現状等に関する基礎調査 (統計データ、来街者アンケートなど)</li> <li>・ 市職員ワーキング・グループ会議</li> </ul>
	下半期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 検討成果報告会の開催 (パネルディスカッションなど)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ エリア活性化のための事業 (中核となるイベントの実施、各施設等の主催イベントの連携開催、エリアマップの作成など)</li> </ul>	
		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">検討結果報告書の取りまとめ</div>			
26年度以降		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 将来構想の策定</li> <li>・ エリアマネジメント体制づくり</li> </ul>			